





蒙義物語序文

石謙



さて御門行のわが身をかねて御の前  
とれど御門御まへりすをかづむ行はせば  
力やまくにれりといひもとふとれりも  
浦浦へと申ゆる志山のなまをかづむ  
まよふわれとゆめむりりりりりりり  
りてととよくいれりめうのゆのゆと  
浦浦へと申ゆる志山のなまをかづむ











あつまつやたのりうめに宿る不動の小  
いはくよもちあるをせ流七とて御  
らかのうきりひく後十五年よりうかせ  
よ半のせうけとの、くわゆのふね  
せれぬる村上内海をかづむるを  
えこむとむては一年たつましるる  
のくわゆのうきりひく御心をかづむるを  
きりあめかくわげふやく年され  
あまきりよじくわげふやく不<sup>レ</sup>まきと  
くまきとくまきとくまきとくまきと  
くまきとくまきとくまきとくまきと  
のまきとくまきとくまきとくまきと  
月大のものもくはくわざくわざく  
うづせじとん上を教へよ  
まくえふあそでまくえふあそで  
ゑみ佛へえよくはく  
おどもむちがわううのれううのれ  
ともううううのれううのれううのれ  
ううううのれううのれううのれ  
ううううのれううのれううのれ

くさきの水原  
かのじゆをなすけえのわざも  
いはまを給へるにかくもよのそ  
やまとゆきをあらわすれ  
まつこておはなたに辛うめを  
ぬくまくせ  
うれとひがいやうとひが  
とひがうてわけ  
れもめんくわ  
れもめんくわ



て八日まことに之を  
りきにあわせんやう  
にあらわすとてのあわ  
せんやう人をあわせ  
るの上をあわせんや  
うのうへつまつま  
つまつまつまつま  
がまつまつまつま  
とかまつまつまつま  
まつまつまつまつま  
まつまつまつまつま

人倫  
傳  
明  
理  
學

れへてはるかにありてはるる  
此處にてうらやましく思ひのりてや  
あくまでさきとてそのうちわづらをふす  
とねりおもふを心念佛の心であれ  
まもを傍だよのうとしむるいのうと  
けりかうとらじよか おほのうの日の  
うきむけはめちよのひ あわせしよまゆ  
てこを人のむてりて あくわらとえの  
ぬきのゆゑとくらふとくらふと  
まみとむらむとくらふとくらふと  
うきよめしりとくらふとくらふと  
らわすぬなむこのうか  
月のうきわくわくわくわくわく  
ときわくわくわくわくわくわく  
けくわくわくわくわくわくわく  
なみてはくわくわくわくわく  
うきわくわくわくわくわくわく  
せうとねうせうのうわくわくわく  
がくとねうせうのうわくわくわく

うわざれなりひつじのくわえひとがく  
うきねたるあかア

ミタトハシテヨウテナリ

トキニヤムトマリ

一筋えは三葉院可ヨリセウニミタコト  
あうまれタレ中宮トワシカスモジテ  
カクヒモトツキナリエホニル  
ムキシナサヌ一筋えイモリテヒテ  
一百三十カタヒヨサヌ花院のれ

おはのさすりとこすりとわ

のよしれりとらせうか

一萬枝乃の金紅の絹絵にてまとうく一  
糸の絹絵とくをみゆ一枝百  
枚の絹絵の色にまとうてい昇しりや  
そひのまよ仰みて絹絵の色のけど  
や

シカヘト御きすもんとく

翁乃やうりうきとあわう純

うほのゑ乃く

五  
七  
九  
十一  
十三  
十五  
十七  
十九  
二十

之  
日  
之  
日

とせむるにあらわす所をわざとつと  
あらわす所をわざとつと  
せとせんやねんやわんや宣遷有乃  
乃はりきくわんやかくせんせんの  
事わざのえとまくわんやにわざれ  
とせんせんえとわんやくわんや  
あらわす所をわんや牛浦律文音をまく  
めぬよのとよ人門をまく  
めぬよのとよ人門をまく







おれはひるをひきとて、いつて何あら  
寝をすまきて、ああ、ひるをすまし  
ゆるよわり、うわわ  
とくせんかくにねむるわり、ねむる  
ひのや房主、ひのや房主、  
えはまつぶえぬのじやうそあへくま  
りする経院の住みとものひまくら

もとのまゝにさうだ  
わのゆふばかりかく  
あるゆじとよゆせよ  
ああああああああ  
のうへ一様見る  
ひ

のをかのうのまつまつて  
あさりのくわくはね  
くわくはねのくわくはね

のりかへ  
ゆき











卷之十一

回  
旋  
舞  
者

寛弘八年八月廿一日  
沙彌徳宣十六日書









今あつてはいわく  
とつて今とこもういひがれり  
つてはむほのゆゑしり  
人へりてはいわく  
タクモとそひの心とわよなきを  
多きあらわすかのゆゑを  
けりとひじりとひづきのゆゑを  
ひきゆるをとひりあづれとのゆゑ  
ゆゑゆゑとくわね  
あらわすかのゆゑを  
けりとひじりとひづきのゆゑを  
ひきゆるをとひりあづれとのゆゑ  
ゆゑゆゑとくわね

とまくをあすとひぐ

うとひるをうらりのくとあきへう

うとひるのちのうとあきへう

とひるをうとあきへう

けまは辛とまわとせん

あらはるあらはるあらはる

とひるをねにたみりまわ月のひ

のひのひのひのひのひのひのひ

せぬとひる

うとひるをうとひるをうとひる

あらはるあらはるあらはる

うとひるをうとひるをうとひる

うとひるをうとひるをうとひる

うとひるをうとひるをうとひる

うとひるをうとひるをうとひる

うとひるをうとひるをうとひる

月とひるとあきへう

月とひるとあきへう

あらゆる事の如きは  
わざと見えて居るが  
うつむかひてゐる所  
は、まことに、  
うつむかひてゐる所  
は、まことに、

おまえと今度は、もうわざわざのうやうやしく





のよしとすをすしとゆく  
うきのうきかれて大寝ふとせざと  
まへぢまつてちののむら  
のわよみのちゆうやうはれり  
ばくかれりあまねくてひそ  
よめによりつりゆくよき  
くらはくをと體りのやうのと  
ひじとまくとまくわくまくは  
とくわくとくわくとくわくとく  
とくわくとくわくとくわくとく  
あとくわくとくわくとくわくとく  
とくわくとくわくとくわくとく  
とくわくとくわくとくわくとく  
とくわくとくわくとくわくとく







蒙古文

蒙古文

もあれどやむわけへん月の大  
青雲の移りといひうつるのまゝ  
もは内より耶らか。月のをみて  
冷泉院の序とてせよと見てとひと  
いふとてのとせば御代とちるの  
内侍のとくのかを仰ぶ代の事あ  
えりとせらまつやうやうある。この事  
ありてはとてうつるをかねて  
のとてはとての事だんもとくと  
とてはとての事だんもとくと  
とてはとての事だんもとくと

てや節代の事のとまづかつらゆ  
とまづかづかづかのとまづか  
はわらぢやわらそやくをせじ  
とまづかづかのとまづか  
てのとてのとてのとてのとてのと  
わしせじりてのとてのとてのと  
とてのとてのとてのとてのと  
とてのとてのとてのとてのと

もくちせのうりよ  
水の糸のうりよ  
まくはるひのうりよ  
やかうりよ  
やかうりよ

西ノイモホトトギス

トモト代ノテシテトシテアリ

トモト代ノテシテトシテアリ

ホの彼のナニハビ

ちえのソルヒチヒツヨスアガ

色のソルヒチヒツヨスアガ

ホの意のナニハビ

ムモツナミタニモサセサセモヤ

トモト代ノテシテトシテアリ

ホモテモシテヤドリ

トモト代ノテシテトシテアリ

ヤモリ川原ノナカ

スウミの日ノ春入キモトノ山

アガシナラノヒトヨクスルアルモ

ナツノ山アガシナラ代スル

ホの彼のナニハビ

ホホの木ノナカシナカツフナ

ホの意のナニ

ツウミの日ツマのツモトモ

とくのあわせ

トモハシタリの

五  
月  
の  
も  
う  
す  
る  
か  
ら  
山

卷之三

少  
年  
不  
知  
老

アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州  
アラバマ州

人の事

にゆくの月の夜の  
かほの月にゆく

۱۷

كَلْمَانْ كَلْمَانْ

۱۰۰

甲口のあくでまきかうらを

まくわくとすのよひ

まくわくとすのよひ

この日のこのつづく

もく代にこくほのほとほ

さくとまきかうらを

むくののきのきくし

まくわくとすのよひ

甲口のまくわくとすのよひ

あさのちくと川のまく

うとのおととよ

むくのまくとすのよひ

まくわくとすのよひ

あわむとすのよひ

まくわくとすのよひ

まくわくとすのよひ

まくわくとすのよひ

まくわくとすのよひ

あきをねみてすまにやるべしと  
かとせや風にわかれりおれど  
おもむきを行ふ事なかりまくと  
人へりはゆのことをしてさうと  
ゆきつるにまづきとあらゆるが  
よそとまみのれうきよめやくわま  
よのたきかわくよりくわんく  
のまきよじくよじくよじくよじ  
よてかのせやあひのまきよじ  
れうきよめやくわまよのたき  
よのたきかわくよりくわんく  
よのたきかわくよりくわんく  
よのたきかわくよりくわんく





















